

スクリーンに映す、ふるさとの輝き

市報おおいた新春号は、本市のまちづくりや未来への展望、魅力の再発見などをテーマとする対談を特集として掲載しています。今回は、大分市出身の演出家・映画監督の平川雄一朗さんをゲストにお迎えし、映画製作に関するエピソードを伺うとともに、大分市長・大分市議会議長と、大分市の魅力やひととのつながりについて対談していただきました。

※収録は7年10月19日に行ったものです。

映画製作のエピソードとおおいたの魅力

—— 平川監督は令和7年に大分市を舞台とした映画「デイズ～かけがえのない日々～」を製作されました。作品に込められた思いをお聞かせください。

平川 「デイズ～かけがえのない日々～」は、都会で働く主人公(俳優・市原隼人さん)が、家族の死をきっかけに地元大分に帰省し、大分の自然や人との交流の中で生き方を見つめ直す物語です。大分市の素敵な場所、そして、大分の人の温かさや優しさを多くの人に伝えたいと思い、撮影に臨みました。

短編映画(40分)は初めての挑戦で、通常のドラマや映画に比べると説明部分がどうしても短くなりますが、その分、見る人の「考える余地」が多くなり、より詩的な物語になったと思います。

市長 大分市がロケ地の映画は多数ありますが、全編大分市ロケで、市民の皆さんにとっても記憶や思い出を投影しやすい作品になっていますね。

大分市が舞台の短編映画「デイズ～かけがえのない日々～」の撮影風景



植田地区
佐賀関地区



セントポルタ中央町商店街



議長 スクリーンの中に自分の馴染みの飲食店や風景、人が登場するのは嬉しいですね。

市長 私には出演オファーが来ませんでした(笑)。大分市には大学や専門学校などで他県に進学しても卒業後に大分に戻って居住または就業すると奨学金返還が免除になる「返還免除型奨学資金制度」や県外から里帰りして出産した産婦を受け入れる家庭を支援する「里帰り出産家庭支援事業」などがあります。一度市外に出て、帰省をきっかけに大分市の魅力を再認識してUターンする方は一定数います。この映画の主人公も、大分に帰ってくるきっかけは帰省でしたね。

平川 私自身も、こどもの頃から育ってきた記憶があるからこそ、一度離れたことでさらに大分市への「ふるさと愛」が大きくなかったと思います。

—— 皆さんが思う大分市の魅力を教えてください。

議長 「ほどよく都会で、ほどよく田舎」という、それぞれの特徴を持ち合わせているのが大分市の魅力だと思

います。中心市街地には商業施設や繁華街があり、郊外は豊かな自然と歴史、文化に満ち溢れています。海の幸と山の幸を堪能できる食と人の温かさについては、会議などで大分市を訪れた方からいつも高評価をいただき、もう一度大分市を訪れたいという声も伺っています。

市長 大分市は歴史が古く、中世には戦国大名・大友宗麟によって国際貿易都市となり、東九州の要衝として重要な役割を担ってきました。一方、新しい文化や多文化を取り入れる気概もあり、日本の教会で日本人の聖歌隊が初めて聖歌を歌った「西洋音楽発祥の地」であり、令和7年に生誕500年を迎えたルイス・デ・アルメイダが日本で初めて西洋式外科手術を行った「西洋医術発祥の地」もあります。

ニラやしいたけ、関あじ・関さばはもちろん、大葉やみつばも西日本1位と山海の幸が充実しているながら、製造品出荷額等は3兆9,000億円を超えて九州では1位と、あらゆる分野で活躍しています。

平川 お墓のシーンを撮影する際、生い茂っていた雑草を事前に抜く作業が必要でしたが、おおいた魅力発信局の皆さん方が早朝から手伝ってくださいました。大分市で初めての映画撮影でしたが、関わってくださった皆さんに共通する「ふるさと大分」への想い、「大分を盛り上げたい」「大分をなんとかしたい」という情熱を、撮影を通して感じることができました。

主演の市原さんにはスケジュールの関係で自由時間を取りることができなかったのですが、撮影を通じて大分の人の魅力に触れ、「大分はとても良いところだ」「離



「デイズ～かけがえのない日々～」舞台挨拶の様子

れたくない」と、すっかり大分のファンになっていただけました(笑)。

市長 大分市外から訪れる約8割はビジネス客です。仕事をして帰るだけではなく、大分で過ごし、触れ合う時間を作ってもらえばもっと良さに気付いてもらえるはずですから、1日余分に宿泊して観光する「プラスワンデイ」を推奨しています。

魅力を発信するために

—— 作品づくりで心がけていることについて教えてください。

平川 映画でもドラマでもそこで生きている人たちの心は本物でいてほしい、ということはいつも言っています。気持ちちは人に伝わる(人に伝わる)から、魅力を伝えうえで大事なのは気持ちだと思います。